

本目録は、当センターの前身にあたる東京大学アメリカ研究資料センターが刊行したオーラルヒストリーシリーズ vol.27『陸井三郎先生に聞く』（1992年刊）について、その巻末にある著書・論文目録を補完したものです。赤字がその追記部分です。

補遺版をご提供くださった藤本博先生（元南山大学教授）に深く御礼申し上げます。

2022年11月

I. 著書・編著

- 『世界現代人名小事典』（岡倉古志郎と共編著）1953年 福音館書店
- 『原子力問題事典』（陸井三郎他編） 福音館 1955年
- 『社会主義対資本主義—米ソ角逐する現代史—』 光文社 1958年
- 『技術的進歩と資本主義』 三一書房 1960年
- 『現代のアメリカ—その病理と課題—』 三一書房 1964年
- 『キューバからベトナムへ—アメリカの侵略工作—』（岡倉古志郎と共編著） 新日本出版社 1965年
- 『ベトナム戦争と労働運動』（岡倉古志郎・坂本徳松と共著） 労働旬報社 1966年
- 『現代アメリカの亀裂—ベトナム・黒人問題・暗殺—』 平和書房 1968年
- 『資料・ベトナム戦争』上・下（編著） 紀伊國屋書店 1969年
- 『ゆらぐドル帝国』 学習の友社 1971年
- 『インドシナ戦争』 勁草書房 1971年
- 『大国と第三世界—崩れる力による支配—』 日本経済新聞社 1974年
- 『アメリカの権力—可能性と限界—』 すすさわ書店 1976年
- 『デタント—反革命世界戦略—』 すすさわ書店 1976年
- 『ハノイでアメリカを考える』 すすさわ書店 1976年
- 『アメリカの核・エネルギー戦略』 東研 1977年
- 『現代世界を考える』 三省堂 1978年
- 『アメリカと現代世界』 東研 1978年
- 『核で核は防げるか』（編著） 三省堂 1982年
- 『ハリウッドとマッカーシズム』 筑摩書房 1990年、社会思想社（現代教養文庫）
1996年、文元社（オンデマンド版、教養ワイドコレクション）2004年

II. 訳書

- J.W.N.サリヴァン『現代の科学精神』 教材社 1942年
- E.H.ノーマン『日本における兵士と農民』 白日書院 1947年
- オーエン・ラティモア『アメリカの審判』 みすず書房 1951年
- E.ブラムシュテット『独裁と秘密警察—恐怖による支配の技術—』 みすず書房 1951年
- シカゴ新報編『ヒステリー・エージ』 月曜書房 1952年
- ヴェブレン『有閑階級論』〔ほか〕『世界大思想全集』（第2期）社会・宗教・科学思想編 第17 河出書房 1953年
- ニム・ウェールズ編『紅い塵—新中国の革命家たち—』上 新評論社 1953年
- E.H.S.バーホップ『原子力の挑戦』 中央公論社 1955年
- 『ソビエトの原子力』（陸井三郎・野中昌夫編訳） 三一書房 1955年
- ハーバート・ファイス『真珠湾への道』（共訳） みすず書房 1956年

- A. アンゲロボウロス『原子力と現代史』 平凡社 1956年
S. リリー『オートメーションの経済学』(編訳) 青木書店 1957年
A. クラミッシュ, E.M. ザッカート共著『原子力と産業』 紀伊國屋書店 1959年
C.F. カーター, B.R. ウィリアムズ『技術革新と投資』 紀伊國屋書店 1960年
ヘレン・アルフレッド『社会主義とはなにか』 三一書房 1961年
ハーバート・アプセーカー『C・ライト・ミルズの世界』 青木書店 1962年
ウォルター・アダムス, ホレイス・M. グレイ『アメリカの独占』 至誠堂 1965年
ジャック・ベルデン『中国は世界をゆるがす』上・中・下(共訳) 青木書店 1965年
『世紀の大論戦—アメリカ上院外交委員会ベトナム問題公聴会議事録—』(アメリカ研究所編訳) 三一書房 1966年
シドニー・レンズ『アメリカのラディカリズム』(共訳) 青木書店 1966年
H. リューマー『アメリカ貧乏物語』(共訳) 青木書店 1966年
I.F. ストーン『危険なアメリカ』 徳間書店 1966年
D.W. コンデ『絶望のアメリカ』(共訳) 徳間書店 1967年
ウィリアム・ルクテンバーグ『ローズヴェルト』 紀伊國屋書店 1968年
D.W. コンデ『アメリカは何をしたか2 朝鮮戦争の歴史, 1950~1953』上・下(監訳)
大平出版社 1967~1968年
N. カッツ『幻想のアメリカ』 ダイヤモンド社 1971年
ウィリアム・ドムホフ『現代アメリカを支配するもの』 毎日新聞社 1971年
『ベトナム帰還兵の証言』(編訳) 岩波書店 1973年
チャールズ・フェン『ホー・チ・ミン伝』上・下 岩波書店 1974年
ジョイス・コルコ『世界資本主義の危機』上・下 岩波書店 1975年
マリー・カルドー『戦争論と現代—核爆弾の政治経済学—』 社会思想社 1986年
ジョイス・コルコ『世紀末恐慌と世界経済【リストラクチャリング・プロセス】』 社会思想社 1989年
ガブリエル・コルコ『ベトナム戦争全史』(監訳) 社会思想社 1992年(近刊)

III. 論文・書評その他

1947年

アメリカの東亞問題評論誌—『アメラシア』について 『中国研究所所報』1号 3月

1948年

アメリカに於ける東亞研究者の系譜 中国研究所編『アメリカの新アジア観』 潮流社
版 1948年5月

1952年

ラティモアの政治的立場と著作 『出版ニュース』 205 号
自由の国の不自由—支配階級と弾圧法規 『改造』 33 卷 14 号
〔翻訳〕オーエン・ラティモア「内陸アジア史の諸論点」(『中国の内陸アジア辺境』 第
2 版 1951 年版序文) 『中国研究』 15 号
彼は本命—この二冊を読んで 『図書新聞』 7 月下旬号。 アイゼンアワー関連著作 (ガ
ンサー『彼は世界を動かしている』、デービス『民主主義の兵士』の紹介)
原爆をめぐる対立の激化 『三田新聞』 698 号 11 月 20 日
アメリカ進歩党の現状—平和のための統一戦線の結成 『世界』 12 月号
岡崎勝男を祭る文 『社会タイムス』 12 月 25 日号

1953 年

「自由」世界の秘密警察 『改造』 34 卷 6 号
自壊するニュー・ディーラー 『京都大学新聞』 678・679 合併号 1 月 1 日
アイゼンハワー政権は日本をどう変えるか 『東京大学新聞』 145 号 2 月 5 日
原爆外交とロ夫妻 『解放』 9 月号
ローゼンバーグ事件夫妻の生涯 『新女性』 9 月号
ホワイト事件 『京都大学新聞』 726・727 合併号 11 月 30 日
ラティモア 創文社編集部編『現代史講座』 第 2 卷 創文社
原爆企業と独占資本 民主主義科学者協会物理部会編『日本の原子力問題』 理論社

1954 年

マッカーシズムの行方 『三田新聞』 722 号 1 月 10 日
〔書評〕 W・Z・フォスター『アメリカ合衆国共産党史』 『図書新聞』 4 月 17 日号
軍事顧問団 『中央公論』 5 月号
〔書評〕 中野五郎『アメリカの暗黒』 『図書新聞』 9 月 4 日号
米原子力法改正の意味するもの 『エコノミスト』 9 月 18 日号

1955 年

原子力植民地主義と原子力平和利用競争 『世界と日本』 20 号
積極的な発言を欠く—外交問題をめぐって(4 月号の雑誌論文から) 『朝日新聞』
(朝刊) 3 月 24 日
原子力導入の問題点 『平和新聞』 5 月 1 日号
濃縮ウランと日本 『婦人民主新聞』 5 月 29 日号
ヒモつきの濃縮ウラン—アメリカはなぜあせる 日米原子力交渉の狙うもの 『全銀
連』 6 月号
一般読者がほしい—数の少ない専門誌 『朝日新聞』 6 月 16 日

平和への諸国民の統一 脅迫・分裂とのつばぜり合い 『朝日新聞』6月16日
〔書評〕F.アレン著『20世紀アメリカ社会史』, サザーランド著『ホワイトカラーの犯罪』 『日本読書新聞』802号 6月20日
原子戦争をはばむ道 『日本読書新聞』808号 8月1日
〔書評〕レオ・ヒューバーマン『社会主義者の責任』 『図書新聞』8月27日号
政治を大衆のものに——政治評論のさまざまなタイプ 『朝日新聞』(朝刊) 11月9日

1956年

風雲を呼ぶ中近東 『知性』3巻1号
ヨーロッパの原子力計画と米英ソの立場 『アイソトープ』2巻2号 6月
〔書評〕スコット・ニアリング『今日のアメリカ』 『図書新聞』6月30日号
進展阻む軍事経済 『東京大学新聞』269号 8月13日
各国共産党の動き 『中央公論』9月号
高まる軍備縮小の機運 『エコノミスト』34巻31号
アメリカに於ける原子力発電と電気資本 『経済評論』5巻7号
アメリカの青年は何を求めているか 『人生手帖』5巻10号 10月
〔書評〕H.マトゥソウ著, 樋口稔訳『偽証』 『日本読書新聞』869号 10月8日
現代世界の情勢 『知性』3巻12号
原子力国際競争と原子兵器禁止問題 『世界史講座』第7巻(現在の世界) 東洋経済新報社

1957年

死までノーマンを追いやったもの 『図書新聞』4月13日号
世界ニュース 『経済セミナー』2号 5月
〔書評〕ダンヴァンポート著, 関嘉彦・白石四郎訳『人間の尊厳』 『日本読書新聞』899号 5月13日
強まる原子・誘導兵器装備 『エコノミスト』5月23日号
マッカーシズムの系譜 『世界』138号
〔書評〕ヴィクター・バーロ『最高の金融帝国』 『読書人』6月25日号
軍縮会議下の国際情勢 『経済時代』22巻8号 8月
ノーマンの死とその背景 『中央公論』8月号
潜在的な大国から顕在的な大国へ——アメリカのアジア政策 『総合』5号
〔書評〕H.オーコンナー著, 佐藤定幸訳『石油帝国』 『日本読書新聞』915号 9月2日
軍事評論という怪物——流行の正体は何か 『日本読書新聞』919号 9月30日

技術革新と都市労働者 『都市問題』48巻11号

国際原子力資本の系譜①～④ 『エコノミスト』11月16日, 23日, 30日, 12月7日号

変容する米国の防衛産業 『エコノミスト』11月26日号

経営学ブームの効用, 上・下 『東京新聞』9月6, 7日

動揺する自由諸国陣営 『経済時代』22巻12号 12月

原子力平和利用について 『人類の危機と原水爆禁止運動—第3回原水爆禁止世界大会討議資料』原水爆禁止日本協議会

1958年

世界は恐怖する 『母の友』52号 1月号

一家五万円の負担 『母の友』56号 5月号

父親のコツ 『母の友』57号 6月号

行き詰まった平和利用 『日本読書新聞』8月4日号

米ソの科学技術競争 『経済セミナー』15号 9月

核兵器をめぐる東西の冷戦—核兵器の実験禁止をめぐる東西の思惑と平和への道
『経済時代』23巻11号 11月

1959年

〔書評〕末永陸甫著『戦後アメリカ資本主義の分析』 『日本読書新聞』984号 1月12日

〔座談会〕米国外交変化の条件(佐藤定幸・中林賢二郎と) 『エコノミスト』1月17日号

経営学ブームを分析する 『事務と経営』113号 2月

〔座談会〕アメリカは転換するか 『エコノミスト』37巻3号

米ソ経済競争の現状と展望 『世界経済年報』第10集

科学技術競争, 1959年アメリカの立場 『世界情勢旬報』382号～383号

難航する巨頭会談への道 『経済時代』24巻8号 8月

〔書評〕瀬長亀次郎著『沖縄からの報告』 『日本読書新聞』1014号 8月10日

ラテン・アメリカの情勢 『世界情勢旬報』402号

米ソ首脳の交換訪問とアメリカ 『世界情勢旬報』408号

1960年

日本にとっての平和共存の意味 『教育評論』91号 1月

あたらしい時代と世界とアメリカ 『世界経済情報』1月上旬・下旬号

軍縮とアメリカの悩み 『経済時代』25巻2号 2月

東西首脳会談と軍縮問題 『世界経済情報』4月上旬号

(図説) 軍備の重荷 『世界』6月号

アメリカはどこへ行く 『世界経済情報』9月上旬号

新安保条約のもたらすもの 安保体制と日米経済協力—経済的側面から 『教育評論』101号 10月

〔書評〕F.ニーベル, C.ベイリー著, 笹川正博・杉淵玲子訳『もはや高地なし—ヒロシマ原爆投下の秘密—』 『日本読書新聞』1078号 11月7日

ケネディ・ブレーンの条件 『日本読書新聞』1080号 11月21日

ケネディ大統領とアメリカの政策 『世界経済情報』11月下旬号

モスクワ声明と世界情勢 『世界経済情報』12月上旬・下旬号

自然科学技術の発達 『世界史体系』第17巻 誠文堂新光社

1961年

〔書評〕牧野純夫『円・ドル・ポンド』 共同通信 1月15・16日

〔書評〕J.M.バーンズ『ジョン・ケネディ』 『日本読書新聞』1月23日号

〔書評〕チェスター・ボールド『平和と繁栄の路線』、ガルブレイス『自由の季節』 『日本読書新聞』6月5日号

教育委員会の自主性—学力調査を返上するに至る経過 『教師の友』

現代世界の構造 三一書房版社会科教育体系編集委員会編『社会科教育体系』第4巻(現代世界と日本 上) 三一書房

1962年

〔座談会〕ケネディ政権の二年目(蠟山芳郎・山本進と) 『エコノミスト』2月20日号

国連軍縮報告の背後にあるもの 『エコノミスト』5月15日号

〔書評〕板垣与一著『アジアの民族主義と経済発展』 『エコノミスト』7月10日号

〔書評〕フレッド・クック『戦争国家』 『図書新聞』7月28日号

〔書評〕田口憲一著『大企業は暗躍する』 『エコノミスト』7月31日号

〔座談会〕遠くの危機にヒヤリ 近くの危機にボンヤリ—キューバ・沖縄・日韓会談の問題をどう考えるべきか(伊藤成彦、日高六郎らと) 『国民会議』37号 12月

1963年

The Disarmament Problem and Our Stand *No More Hiroshimas* 1月

1963年の世界情勢—キューバ危機を手掛かりとして 『銀行労働調査時報』147号 1月

〔書評〕アーノルド・トインビー著, 黒沢英二訳『失われた自由の国』 『エコノミス

ト』1月15日号

軍縮とその経済的諸側面 『国際問題』36号

〔書評〕ハーバート・アプセーカー著『アメリカの外交政策と冷たい戦争』 『エコノミスト』4月16日号

〔時評〕ケネディの援助政策 『月刊アジア・アフリカ研究』5月号

前進する米国の黒人解放とその経済的背景 『エコノミスト』9月3日号

〔書評〕ガブリエル・コルコ著, 佐藤定幸訳『アメリカにおける富と権力』 『エコノミスト』9月24日号

豊かな社会の矛盾 『エコノミスト』秋季別冊号

〔時評〕大統領の暗殺とアメリカのA・A政策 『月刊アジア・アフリカ研究』12月号

ケネディ路線の次にくるもの 『エコノミスト』12月3日

1963年の世界情勢——キューバ危機を手掛りとして 『銀行労働調査月報』147号

1964年

〔書評〕『岩波講座現代6 冷戦』 『図書新聞』1月1日号

1964年の国際情勢について—アメリカの対外政策を中心に 『銀行労働調査時報』160号 1月

ケネディ暗殺の背景 『現代の眼』1月号

反逆するアメリカ——秘密結社 『現代の眼』3月号

ミステリー・オブ・アメリカ 『現代の眼』4月号

《五月の七日間》の真理と背理 『映画芸術』12巻4号 4月

〔時評〕当面のニグロ解放闘争における諸論点 『月刊アジア・アフリカ研究』7月号

アメリカにおけるニグロ解放闘争と労働者階級 『経済』9号

〔書評〕アレン・ドルーリ著, 川口正吉訳『アメリカ政治の内幕』 『エコノミスト』6月16日号

ゴールドウォーター登場のつぎにくるもの 『投資経済』63巻6号 8月

軍事的冒険とアメリカ内政 『経済セミナー』99号 9月

〔書評〕岡倉古志郎・蠟山芳郎編著『新植民地主義』 『エコノミスト』9月29日号
オズワルドは二度殺された 『現代の眼』12月号

〔書評〕L.E.ローマックス著, 山田進一訳『黒人革命』 『エコノミスト』12月8日号

〔時評〕ジョンソン政権の1年間と今後について 『月刊アジア・アフリカ研究』12月号

現代世界の政治と経済 『学習講座 社会科学の基礎』第4巻 青木書店

経済学者・産業人のことば 五六話 (玉井龍象と) 『現代の名言と古典の挿話』 自由国民社

1965年

- 〔座談会〕米原子力潜水艦「寄港」問題と科学者の立場 『文化評論』3月号
- 胎動するアメリカ労働運動——1930年代は再現するか 『エコノミスト』3月9日号
- アメリカとベトナム——ジョンソン政権を“支える”もの 『エコノミスト』43巻15号
- ふたつのアメリカ暴露映画の背景 「大いなる野望」「野望の系列」 『映画芸術』13巻5号 5月
- アメリカのアジア政策と佐藤外交 『経済セミナー』107号 5月
- 日韓問題とヴェトナム戦争をつなぐもの 『日本』8巻5号
- 激動するアメリカ労働運動 『労働経済旬報』610号
- ペンタゴンの挑戦 『現代の眼』6月号
- 〔書評〕 D.コンデ『アメリカの夢は終わった』・R.スピラー『現代のアメリカ文化像』
『図書新聞』7月3日号。
- 〔書評〕 中屋健一『アメリカ現代史』 『図書新聞』8月4日号
- ヘーグ不戦条約はなぜ無視されたのか 『丸』18巻8号 8月
- アメリカ政治の異常事態 『日本』8巻9号
- 〈研究〉アメリカにおける反戦闘争の実態と性格 『月刊アジア・アフリカ研究』10月号
- アメリカと朴政権の役割 『日韓問題』（緊急特集版）10月10日
- 〔翻訳〕合衆国陸軍地域別ハンドブック日本編，アメリカ軍部の対日特殊研究（田中勇と共訳） 『日本』10月号
- アメリカの極東戦略における朝鮮半島の位置 齊藤孝・藤島宇内 編『日韓問題を考える』 太平出版社

1966年

- 〔翻訳〕I. F.ストーン「日誌・ベトナム戦争批判」 『日本』2月号
- 〔書評〕W.E.B.デュボア著，木島始訳『黒人のたましい』 『月刊アジア・アフリカ研究』2月号
- ベトナム戦争の動向と米国外交経済の動向(国際事情第82回研究会記録) ジャパン・プレス・サービス 2月
- アメリカ知識人の反戦運動とその背景 『歴史評論』186号
- 〔書評〕神谷不二著『朝鮮戦争—米中対立の原型—』 『月刊アジア・アフリカ研究』3月号
- ジョンソン教書とアメリカ経済 『経済』23号
- アメリカのベトナム反戦運動 『東京大学新聞』651号 4月11日
- 〔翻訳〕ベトナム問題・米上院公聴会議事録（陸井三郎訳編） 『現代の眼』5月号

アメリカ国内の反戦運動 『経済セミナー』120号 5月

アメリカは中国政策を変えるか——現状維持派ゆさぶる内外の圧力 『エコノミスト』
5月31日号

アメリカ社会の「安定」の崩壊と背景——反戦運動の現状と展望 『経済評論』15巻
7号

極右・ウェルチの存在理由 『日本』9巻3号

〔書評〕マーチン・ルーサー・キング著、中島和子・吉川博己訳『黒人はなぜ待てない
か』 『エコノミスト』6月7日号

アメリカ帝国主義の侵略的本質とたかまる反戦運動 『労働経済旬報』610号

アメリカ帝国主義研究のための文献の紹介 『経済』30号

ジョンソンは平和を語り戦争をつくる 『国民文化』80号 7月

瑣末主義と「現実主義」〈論壇回顧——1966年・国際〉 『エコノミスト』12月27日
号

1967年

アメリカにおける学問の自主性，“学園の叛乱”，軍事研究 『日本の科学者』1巻5号
北爆下の北ベトナムから帰って(国際事情第84回研究会記録) ジャパン・プレス・サ
ービス 2月

北爆下の国を見て——ベトナム人の微笑と信念 『エコノミスト』2月14日号

戦場ハノイからの報告 『現代の眼』3月号

Eye Witness Account of the Unbelievable U.S. Atrocities in Vietnam *No More
Hiroshimas* 3月

「戦略村」とたたかう南ベトナム人民 『経済』35号

Eye Witness Account of the Struggle of the Heroic Vietnamese People *No More
Hiroshimas* 4-5月

国際戦争犯罪法廷の背景——各国にみるベトナム反戦の論理 『エコノミスト』5月30
日号

[特別報告] ベトナム戦争 パリ国際裁判の祈りの証言 『マドモアゼル』6月号

[録音資料] ベトナム戦犯国際法廷 『朝日ソノラマ』91号 6月

西欧の知識人と反戦運動 『学生新聞』6月28日号

〔証言〕ねらいは人身破壊だ 『現代の眼』7月号

ストックホルム法廷の論理 『現代の眼』7月号

ベトナムにおける戦争犯罪国際法廷の意義 『教育評論』203号

〔書評〕ハイマン・リューマー著『アメリカ経済はどこへゆく』 『エコノミスト』8
月10日号

ベトナム戦犯裁判「東京法廷」の意義 『国民文化』94号 9月

東京法廷 『労働経済旬報』9月21日号

ラッセル法廷——東京からコペンハーゲンへ 『現代の眼』11月号

Bombing of Civilian Targets No More Hiroshimas 12月

乏しい全体的把握〈論壇回顧——1967年・国際〉 『エコノミスト』12月26日号

Report on Civilian Bombardment testimony by Professor Kugai John Duffet, ed. Against the Crimes of Silence: Proceedings of the International War Crimes Tribunal (1968). 抄訳 日本委員会「民間の砲爆撃」ベトナムにおける戦争犯罪調査日本委員会編 『ラッセル法廷』人文書院

1968年

〔時評〕情勢に強いられたジョンソン提案 『月刊アジア・アフリカ研究』4月号

ベトナムに揺れる米国政界 『エコノミスト』4月2日

〔座談会〕ベトナム新情勢をどうみるか——内外の矛盾深まる米国(蠟山芳郎・斉藤孝・清水知久と) 『エコノミスト』4月16日号

アメリカ・ブラックパワー——その背景と論理 『エコノミスト』4月23日号

平和憲法と民族基本権 『教育評論』215号

アメリカ革命の展望——アメリカの新ラディカリズムと黒人の解放 『現代の眼』6月号

この異常なアメリカ——ケネディ暗殺の意味するもの 『エコノミスト』6月18日号

アメリカのバリ会談戦略とその成否 『月刊アジア・アフリカ研究』7月号

アメリカ社会の全層的分裂 『経済評論』17巻9号

〔対談〕米国は手術不能の肥満児だ(田英夫と) 『宝石』8月号

〔書評〕奥源造著『米国への警鐘』 『エコノミスト』9月24日号

21世紀への提言 無関心ではいられぬアメリカの苦悩 『高校英語研究』10月号

〔書評〕清水知久『アメリカ帝国』 『図書新聞』10月19日号

〔書評〕コンデ『アメリカの夢は終わった』、スピラー他『現代のアメリカ文化像』 『図書新聞』10月19日号

〔時評〕ニクソンの当選と今後の内外政策 『月刊アジア・アフリカ研究』11月号

〔座談会〕これからのベトナムと世界——北爆全面停止がもたらすもの(清水知久・北畠霞と) 『エコノミスト』11月12日号

ニクソン——人と政策 『エコノミスト』11月19日号

最近のアメリカ労働運動 『経済』56号

1969年

世界経済研究所のころ 『岡倉古志郎国際政治論集 第3巻』 勁草書房 1969年1月

〔座談会〕激動する内外情勢と「70年問題」の展望（岡倉古志郎・川端治と） 『経済』57号

ニクソン新政権の性格と限界——反映するアメリカの体制的危機 『エコノミスト』1月7日号

パリとジュネーブの間——二つのベトナム和平会談を解剖する（上）・（下） 『エコノミスト』4月22日号・29日号

ニクソンのベトナム和平計画 『エコノミスト』5月27日号

〔時評〕ニクソン政権のベトナム政策 『月刊アジア・アフリカ研究』6月号

〔書評〕ブルッキングス研究所編，朝日新聞外報部訳『アメリカは何をなすべきか』 『エコノミスト』6月17日号

〔翻訳〕G.コルコ「ベトナムにおけるアメリカ，1969年——ニクソンに残された時間は少ない」 『エコノミスト』8月19日号

[書評]エリック・ホッファー『大衆運動』 『エコノミスト』8月26日号

出口のない内外戦略——軍拡と国内計画縮減の矛盾 『エコノミスト』10月10日臨時増刊号

米国のポリシーメーカーのアジア戦略——前途多難な「ベトナム以後」 『エコノミスト』10月25日臨時増刊号

〈今月の訪問〉陸井三郎アメリカ研究所長に聞く 『前衛』11月号

もう一つのアメリカ 『文化評論』12月号

日本の膨張強く警戒—北ベトナム外相と会見して 『読売新聞』12月24日

ベトナム戦争犯罪法廷のこと 日本平和委員会編『平和運動20年記念論文集』大月書店

1970年

〔解説〕ミューズ著，志賀潔他訳『アメリカの黒人革命』 弥生書房

これが注目のソンミ以上の大虐殺だ 『週刊現代』1月8日・15日合併号

見てきた北ベトナム(1)~(8) 『エコノミスト』1月13日号~3月17日号

北ベトナム昨今 『毎日新聞』1月16日・17日

〔書評〕アーサー・シュレジンガー・ジュニア著，大前正臣訳『信頼の崩壊』 『読書の友』358号

日本人は“黄色い白人”なのか 『アサヒグラフ』2月6日号

ベトナム情勢と沖縄「返還」 『学習の友』199号 3月

日米関係の系譜—棍棒政策から「パートナーシップまで」 『月刊教育』4月

ベトナム民主共和国におけるアメリカの戦争犯罪の調査 『法律時報』42巻6号

私のレーニン発見 『文化評論』5月号

インドシナ介入の論理と破綻 『エコノミスト』5月19日号

〈資料〉「日本の軍国主義復活」について 米下院外交委員会アジア調査団報告(4月22日, 日本・沖縄の項全訳) 『エコノミスト』5月26日号

[書評] クロード・ジュリアン『アメリカとは何か』 『サンデー毎日』6月7日号。

〈紹介〉W.J.ポメロイ著『アメリカの新植民地主義』 『月刊アジア・アフリカ研究』7月号

アメリカのインドシナ侵略と日本 『学習の友』203号 7月

ベトナム(8月3日)での特別報告『1970年第16回原水爆禁止世界大会の記録(2)』

母の像 生き甲斐 『子どものしあわせ』172号 9月

ニクソン提案は和平の契機になるか 『エコノミスト』10月20日号

ストックホルムのインドシナ法廷 『読売新聞』11月14日(夕刊)

北爆再拡大の恐れも 『北海道新聞』11月22日

〔翻訳〕グエン・マイ「ベトナムにおけるゲーティン・ソビエト連動, 1930—31年」
『歴史学研究』366号

ベトナムにおけるアメリカ研究について 『歴史学研究』366号

1971年

「ニクソン・ドクトリン」とアメリカの対外政策 『月刊アジア・アフリカ研究』1月号

[書評] 本多勝一『アメリカ合州国』 『サンデー毎日』1月24日号

アメリカとインドシナ(上)・(下) 『エコノミスト』2月23日号, 3月2日号

〔書評〕タンゼント・フープス著, 丸山静雄訳『アメリカの挫折—インドシナへの介入とその限界—』 『朝日アジアレビュー』3月号

くるま 『学習の友』3月号

〔座談会〕ラオス侵攻の破綻とインドシナ情勢の展開(岡倉古志郎・鈴木正四・寺本光朗・吉沢南と) 『月刊アジア・アフリカ研究』4月号

〔座談会〕米中接近の可能性をさぐる(蠟山芳郎・石塚俊二郎と) 『エコノミスト』4月27日号

カーリー裁判の真相は隠されている 『現代』6月号

ベトナム機密文書——タイムズ・ポスト報道の背景(上)・(中)・(下) 『読売新聞』(夕刊) 6月22, 23, 24日

ベトナム秘密文書暴露の知られざる事情——米国の「リベラル」の立場と今後の展望
『月刊エコノミスト』8月号

「マクナマラ文書」の性格 『文化評論』9月号

ニクソン訪中決定をめぐって 『月刊アジア・アフリカ研究』9月号

ベトナム・中国・ドル防衛の行方 『週刊現代』9月7日臨時増刊号

二つの衝撃で米国は立直るか 『エコノミスト』9月14日

キッシンジャーの軌跡——限定戦争論から中国接近政策まで 『時代』10月号
“The Balang An Massacre,” in Crimes of War, ed. By Richard A. Falk, Gabriel Kolko, and Robert Jay Lifton, New York: Random House, 1971, 590pp.

アメリカ世界政策の破綻 『世界』10月号

[書評] 清水知久『アメリカ・インディアン』 『サンケイ新聞』10月4日号

用意周到に“真珠湾”を利用したルーズベルト 『サッポロビールPR誌』10月号

「アメリカ帝国」の新しい危機 『学習の友』218号 10月

ジョー・ヒルの時代と世界 『映画学習資料』21号、10月

〔翻訳〕ガブリエル・コロコ「ベトナムからの撤退は幻想」 『エコノミスト』10月12日号

[座談会] “力の均衡”最編期に一米ソ両陣営とも「下剋上」(永井陽之介、嬉野満洲雄と) 『読売新聞』10月14日(夕刊)

[座談会] 歴史の審判—中国、堂々の登場(高野雄一ほか) 『読売新聞』10月26日(夕刊)

[書評] 真保潤一郎・高橋保『東南アジアの価値体系3 ベトナム』 『東京新聞』12月17日

1972年

激動する世界と日本の進路 『教育評論』269号

[書評] ミンツ、コーエン共著『アメリカ株式会社論』 『学燈』1月号

アメリカ世界政策の危機—破綻する「国境なき帝国」『財界展望』臨時増刊号 1月
北爆再開とニクソンの賭け 『エコノミスト』1月18日号

[座談会] 映画『死刑台のメロディ』をめぐる(山田洋次、山田和夫、津田京子と) 『映画学習資料』2月号

米中に「平和共存」時代はくるか——国家利益が回転軸に 『エコノミスト』3月7日号

米中共同声明の背後にあるもの 『サンデー毎日』3月12日号

〔座談会〕上海声明が歴史に刻むもの(颯山芳郎・野村浩一と) 『エコノミスト』3月14日号

[書評] 石垣綾子『さらばアメリカ—反戦活動の明け暮れた日々』 『サンデー毎日』4月30日号

〔翻訳〕ガブリエル・コロコ「幻想のなかの米軍撤退」 『エコノミスト』5月2日号
ニクソン強硬策の思惑 『エコノミスト』5月23日号

[書評] 松尾文夫『ニクソンのアメリカ』 『週刊東洋経済』5月27日号

日本もまき込むニクソン最後の賭け 『サンデー毎日』5月28日号

ベトナムの現実と神話 ハノイ最前線 上・下 『読売新聞』6月21日・22日

「猛爆下の北ベトナム」上・中・下『河北新報』6月29日、7月1日、7月2日
ハノイ報告(1)～(4) 『エコノミスト』7月4, 11, 18, 25日号
現地報告 北ベトナムの皆殺し戦争 『週刊読売』7月22日号
[書評] セイモア・メルマン『ペンタゴン・キャピタリズム』 『サンデー毎日』8月13日号
〔討論〕日中接近の政治学(野村浩一・斉藤孝・関寛治・山極晃と) 『エコノミスト』9月5日号
[書評] ウルス・シュワルツ『アメリカの戦略思想』 『エコノミスト』9月19日号
北ベトナムでアメリカを考える 『中央公論』10月号
日中打開以後のアジア——共存の道はひらけるか 『エコノミスト』10月10日号
ベトナム和平 道は一つ 『読売新聞』10月25日
〔対談〕民族自決の原理(木村哲三郎と) 『朝日ジャーナル』11月10日号

1973年

アメリカはベトナムから手を引くか 『週刊東洋経済』1月6日号
新年に持ち込むベトナム和平—ニクソンの“力”はねかえず解放側 『エコノミスト』1月9日号
暗いニクソン新政権の前途 『エコノミスト』1月16日号
[座談会] ベトナム和平(中江要介、嘉治元郎と) 『日本経済新聞』1月25日
〔座談会〕ベトナム戦争とは何であったか(寺沢一・山極晃・日野啓三・山室英男と) 『東洋経済』2月10日号
「徹底抗戦」を支えた豊かな心 『アサヒグラフ』2月20日号
独裁者ニクソンの終わりのなき冒険 『現代』3月号
〔翻訳〕ガブリエル・コルコ「アメリカの神話とその敗北」 『世界』3月号
財界がねらうベトナムへの思惑 『エコノミスト』3月6日号
ベトナム復興計画の論理と背理——ニクソン・キッシンジャーのインドシナ復興援助戦略に関連して 『週刊東洋経済』3月31日号
人間の尊厳とベトナム人民の権利 『現代と思想』11月号
(報告) アメリカの戦争犯罪行為 『世界』4月号
〔対談〕ベトナム協定の思想(芝田進午と) 『文化評論』4月号
「キッシンジャーとヴェトナム」岡倉古志郎・江口朴郎監修 『70年代のアジア』(全4巻)特集号 時事通信社 1973年5月
〔時評〕ベトナム協定以後のアメリカのインドシナ戦略について 『月刊アジア・アメリカ研究』5月号
しぶとくあくどいニクソン外交の手口『週刊サンケイ』臨時増刊5月7日号
〔書評〕ジャン・ピエール・デブリ, アンドレ・マンラ著『わが告発—南ベトナム政治

囚を救え!』 『サンデー毎日』 7月1日号
幻想と矛盾のベトナム停戦 『財界展望』 7月1日臨時増刊号
ベトナム停戦の筋書き—ハンチントン・レポート 『中央公論』 7月号
〈資料〉南ベトナムにおける政治闘争にそなえて—ハンチントン・レポート 同上
〔討論〕戦後日米関係の終焉(長州一二・金森久雄・清水知久と)『エコノミスト』7月
17日号
亀裂入った日米共存—カギ握るアジアの流動 『エコノミスト』7月17日号
幻想と矛盾のベトナム停戦—ベトナム戦争は終わったか 『財界展望』臨時増刊号 7月
米軍の”犯罪性”告発 『沖縄タイムス』8月16日号
ささえた人たち 保谷民主教育を守る会編『民主教育の灯をかかげて—保谷民教の歩
み』9月
日本、ハノイと国交樹立『エコノミスト』10月9日
〔書評〕ダニエル・エルズバーグ著, 梶谷善久訳『ベトナム戦争報告』『サンデー毎日』
10月14日号
“カンボジア以後”のインドシナ展望 『アジア』11月号
(トピックス) 無意味に終わったキ長官訪日『エコノミスト』11月27日号。
〔書評〕矢田俊隆『メッテルニヒ』 『サンデー毎日』12月2日号
アメリカのベトナム裁判『アジア・レビュー』冬期号
〔翻訳〕ガブリエル・コルコ「20世紀アメリカにおける権力」『現代と思想』14号

1974年

現代アメリカ研究とペンタゴン・ペーパーズ『歴史評論』235号
〔書評〕日本経済調査協議会『インドシナ復興・開発の方途』『月刊アジア』1月号
〔書評〕ステファン・グローバード著『キッシンジャー』『エコノミスト』1月29日号
〔翻訳〕ガブリエル・コルコ「安定度増す南ベトナム解放区」『エコノミスト』2月12
日号
インド洋緊迫の裏に何があるか 『エコノミスト』4月2日号
〔翻訳〕ガブリエル・コルコ「サイゴン政権への新しいテコ入れ」『週刊東洋経済』4月
13日号
北ベトナム—独自の民主的自由『アジア』6月号
〔書評〕オリアーナ・ファラーチ著, 河島英昭訳『愛と死の戦場』『サンデー毎日』6月
2日号
外国語上達のプロセス 『毎日新聞』(夕刊, 学芸欄)6月8日
ロッキードが墮落したとき—バスに乗り遅れた国際企業の運命『エコノミスト』6月25
日号
〔対談〕〔国際対論〕狂相「世界大乱」の点と線を結ぶ(サム・ニューモフと)『現代』

8巻7号

〔書評〕川本邦衛編『南ベトナム政治犯の証言』『サンデー毎日』7月28日号
アメリカ・デモクラシー 『北海道新聞・東京新聞・中日新聞・西日本新聞連合』8月12日

アメリカン・デモクラシー 本当に復元したのか？『読売新聞』8月12日(夕刊)
ニクソンを追放した米大資本の恐るべき権力闘争 『週刊読売』(増大号)8月24日号
キッシンジャー外交は生き残るのか 『週刊東洋経済』8月24日号
ああ、アメリカン・デモクラシー！！ 『サンデー毎日』(緊急増大号)8月30日号
一つの時代が終わった—敗退したニクソン・キッシンジャー外交 『朝日ジャーナル』(臨時増刊号)9月1日

フォード政権とアメリカ財界 『週刊東洋経済』10月5日号
国防総省をリードする財界 『エコノミスト』10月29日号
“The World Bank and Asian Development Bank Project in propping up the Saigon Regime,” in World Bank and Saigon, October, 1974, The American Friend Service Committee.

世界恐慌に「王朝」はどう対処するか 『現代』11月号
ラロック証言が語る米の世界戦略—誇示された核の優越性と日本 『エコノミスト』11月12日号

〔書評〕カール・バーンスタイン, ボブ・ウッドワード著『大統領の陰謀』 『サンデー毎日』12月1日号

極東戦略に乗り出したフォード 『エコノミスト』12月3日号
外国人との付き合いと語学—鎖国はまだ解けていない 『毎日新聞』(夕刊, 学芸欄)12月7日

1975年

米ソ首脳会談の意味するもの 『世界政経』1月号
〔書評〕ロバート・モス著『アジェンダの実験』 『サンデー毎日』2月23日号
[座談会]ノンフィクションはだから読まれる(亀井俊介、中田耕治と)『時事英語研究』3月号
デタントによる世界秩序は崩れた 『エコノミスト』4月8日号
最終局面を迎えるベトナム30年戦争 『毎日新聞』(夕刊, 学芸欄)4月11日
[座談会]激動のインドシナ 和平への構図(中嶋嶺雄, 糸賀滋と) 『北海道新聞』4月11日(夕刊)
〔対談〕大流動の時代はじまる—再編成期迎えた国際環境(中嶋嶺雄と)『朝日ジャーナル』4月18日号
30年戦争の終局とベトナム人の心 『読売新聞』(夕刊, 文化欄)4月18日

〔座談会〕日本が外交モラルを示す時（木村俊夫・武者小路公秀・小山内宏と） 『読売新聞』5月2日

<緊急インタビュー> これからのベトナム、日本、アメリカ 『サンデー毎日』5月18日号

〔座談会〕アジアの激変と米中ソの対応—民族解放と社会主義の間（山本満・菊池昌典と） 『エコノミスト』5月20日号

〔報告〕分断国家と大国（シンポジウム・アジアの分断国家と平和） 『朝日アジアレビュー』6巻2号

ベトナムの“難民”問題とは何か 『世界』6月号

[書評] D.ハルバースタム『ベスト&ブライティスト』全3巻 『東京大学新聞』6月21日号

世界史の中のベトナム革命（覚え書） 『経済評論』24巻7号

ベトナムの完全勝利とアメリカの戦略・政策 『月刊アジア・アフリカ研究』7月号

揺れ動いたクオリティ・ペーパーズ 『時事英語研究』8月号

核科学崇拜主義 『毎日新聞』（夕刊, 学芸欄）8月20日

外に晴れぬCIA, ロックフェラー委員会報告 『読売新聞』（朝刊）8月25日

本当の“ベトナム戦争”はこれから始まる 『月刊日本』9月号

本多勝一の論理〈解説と補遺〉 本多勝一著 『続・ベトナム戦争』すずさわ書店 1975年9月

〔書評〕ロックフェラー委員会, 毎日新聞外信部訳『CIA』 『エコノミスト』9月9日号

米国のアジア戦略と日本外交 『季刊世界政経』10月

アメリカ資本主義と科学技術—国家・多国籍企業・テクノロジー 『科学と思想』18号

〔座談会〕世界史のなかのベトナム戦争（江口朴郎・関寛治・津田達夫と） 『現代と思想』22号

フォード訪中にみる米国戦略 『エコノミスト』12月16日

1976年

ローゼンバーグ事件とマッカーシズム 『東京大学新聞』1月1日号

[論壇] 対ベトナム外交に臨む 『読売新聞』1月16日

[論壇] アメリカ200年目の亀裂 『読売新聞』1月30日

アジアの制圧を図るメジャー——中国, ベトナムはどう対応する 『エコノミスト』2月

多国籍犯罪の内幕 『エコノミスト』2月24日号

いく層にも引き裂かれた社会 『時事英語研究』3月号

〔座談会〕アメリカの矛盾と混迷（山本進・菊住昌一と） 同上

ロッキードという政治爆弾—軍産複合体の悪循環を断つには 『エコノミスト』

(3月29日臨時増刊号)

米国の多国籍犯罪—その動態 『世界』4月号

[論壇] 共産党政権参加と米ソ 『読売新聞』4月23日

ロッキード・ギャップ『時事英語研究』(特集 日米コミュニケーション・ギャップ)5月号

トルーマン・ドクトリン、マーシャル・プラン 『週刊20世紀の歴史』6月30日号

〔座談会〕戦後日本の政治とロッキード問題(田口富久治、河村望他と) 『日本の科学者』11巻7号

国際政治のなかの中国—外交は建前と現実との乖離が常につきまとう 『月刊世界政経』5巻7号 7月

〔対談〕アメリカの歴史と思想(河村望と) 『現代と思想』25号

〔座談会〕毛沢東主席の死と世界—「文革路線」は変わるのか(小島麗逸・矢吹晋と)

『エコノミスト』9月21日号

カーターの支持基盤を探る—共和党から乗り換えた米財界主流 『エコノミスト』11月2日号

〔書評〕H. キッシンジャー著, 伊藤幸雄訳『回復された世界平和』『エコノミスト』11月9日号

1977年

[座談会] 77年をどうつかむ—米カーター政権の登場と日米安保体制の新段階(林茂夫、吉原公一郎と) 『平和新聞』1月5日号

アメリカの直面する情勢と課題 『世界週報』1月18日号

〔座談会〕『トンニャット・ベトナム』をめぐって 『シネ・フロント』4月号

再建ベトナムと欧米知識人 『読売新聞』(夕刊, 文化欄)5月23日

“A dog on the hay” 『ハーバート・ノーマン全集』第2巻・月報2 岩波書店 1977年6月

米核戦略にひそむ危険な決意—愚かな神話に踊る日本 『エコノミスト』7月5日号

核兵器開発はここまできた 『世界』8月号

〔座談会〕アメリカの強さと弱さ—多元的な再統合の力(富塚文太郎・清水知久と)

『エコノミスト』10月20日臨時増刊号

〔座談会〕原水爆禁止運動の新たな高揚にむけて(古在由重・北川隆吉と) 『日本の科学者』12巻11号

1978年

〔座談会〕戦後世界と平和運動を考える—核兵器廃絶を中心にして(平野義太郎他と)

『科学と思想』 27号 1月

カーター政権と第三世界 『月刊アジア・アフリカ研究』1月号

[座談会] 1978年の日本—円高日本の生きる道(大来佐武郎、吉野俊彦他と)『文芸春秋』
1月号

カーター、霧の中の二年目——”消耗品”の静かな対応力 『エコノミスト』1月31日号

石油資源はなくなるならない 『文芸春秋』2月号

ベトナム戦争とアメリカ アジア・アフリカ研究所編『ベトナム』下巻 水曜社 1978年3月

世界を動かし始めたNGO運動 『新聞研究』324号

荒れ狂う「円」の国際仕掛人 『現代』12巻5号 5月

国連軍縮総会とNGO 『朝日新聞』(夕刊)5月23日号

アメリカの核戦略と日本の原子力問題『日本の科学者』13巻7号

原子力報道に望む 『新聞研究』324号 7月

もう一つのアメリカ—NGOの一員としての帝国初見 『エコノミスト』8月1日号
〔対談〕核兵器完全禁止への道(バーナード・フェルトと)『朝日新聞』(朝刊)8月5日

〔座談会〕アジアにおける民族・社会主義・国家について——ベトナム・中国問題を検討する(菊地昌典・今川瑛一と)『エコノミスト』9月5日号

アメリカは何をねらっているか——資源問題から見た日米関係とアジア 『朝日ジャーナル』9月25日臨時増刊号

[書評]入江昭『日米戦争』『北海道新聞』10月17日号

核廃絶をめざす運動の発展とその国際的責任 『平和運動』10月

1979年

公開されたアメリカの機密文書から『教室の窓 東書 中学社会』No.222 2月1日号
中越戦争、その衝撃とアジアへの波紋(関寛治、辻康吾、今川瑛一と) 『エコノミスト』3月6日号

反革命世界戦略“デタント”と中国外交 『現代と思想』35号

〔対談〕骨肉相食む中・越の論理——社会主義国間闘争の背景をさぐる(田中竹彦と)
『朝日ジャーナル』3月16日号

〔座談会〕『ディア・ハンターをめぐる』(山田和夫・芝田進午と) 『シネ・フロント』4月号

民族問題と平和教育 国際問題と私たちの課題—陸井三郎氏に聞く 『歴史地理教育』
4月号

〔翻訳〕ガブリエル・コルコ「知性と統合——合衆国における資本主義合理化の神話」

『現代と思想』36号

〔解説〕ロバート・C・オールドリッジ著, 山下史訳『先制第一撃—アメリカ核戦略の全貌—』TBSブリタニカ 1979年6月

中国—放置できないアジアの真空 『エコノミスト』6月19日号

アメリカのエネルギー政策 『季刊世界政経』71号

米国戦略の矛盾を衝く—世界を揺るがす石油断交 『エコノミスト』12月4日号

1980年

アメリカ帝国主義はどこへいったか 『月刊アジア』3月号

わたしにとっての山田洋次 『シネフロント』別冊 3月

〔座談会〕怖さがのぞくアメリカの右旋回(徳山二郎・袖井林二郎と) 『週刊東洋経済』3月1日号

《読書ノート》核時代に生き残るための思想 『現代と思想』39号(3月)

米国経済の軍事化を吟味する—追加軍拡の効果と報酬 『エコノミスト』4月1日号

『ガリレイの生涯』とヒロシマ 『朝日新聞』(夕刊, 文化欄)4月9日

〔座談会〕核戦争の恐ろしさをもっと意識したい(河嶋五郎、大里文子、菊野洋子と)

『子どものしあわせ』310号 8月

〔対談〕核兵器完全禁止への道(ジョゼフ・ロートブラットと) 『朝日新聞』(朝刊)8月3日

「軍事バランス」という名の元凶—核競争の思想を生むメカニズム 『エコノミスト』11月20日臨時増刊号

1981年

〔論調〕レーガン政権の基本的性格 『月刊アジア・アフリカ研究』1月号

〔書評〕岡崎次郎編集代表『現代マルクス=レーニン主義事典』全3巻『週刊読書人』1月26日号

ミルズ著『第三次世界大戦の諸原因』をよみなおす 『思想の科学』128号

“近代化”の課題とインドシナ諸国 『月刊アジア』2月号

戦中・戦争直後の平野先生『平野義太郎一人と学問—』大月書店 1981年2月

中東に向けたレーガンの未知の顔—選択の余地はあまりにも少ない 『エコノミスト』2月3日号

レーガンの登場と今後のアメリカ 『木村経済レポート』10巻3号 3月

米原潜事故にみるズサンな核管理—狂気の核軍拡を阻止できるか 『エコノミスト』5月19日号

〔書評〕E.P.トンプソン・D.スミス『生き残るために抗議する』『思想の科学』6月号
産学協同—A la Reagan 『日本の科学者』16巻6号 6月

非核に独自の論理を〔東西軍事力第4部・専門家に聞く(12)〕 『毎日新聞』(朝刊)
6月16日

レーガンの核軍拡路線と中国——“唯一の加爆国”米国に抗議する 『エコノミスト』6
月23日号

〔座談会〕イスラエルがサウジを攻撃する日(小山茂樹・岡倉徹志・最首公司と) 『ダ
イヤモンド』6月27日号

ベトナム戦争——ベトナム以降の歴史的転換に基づく再評価 『月刊アジア』7月号
日本の位置づけ欠いた防衛白書 『毎日新聞』(朝刊)8月15日

核軍拡の軌跡と帰結——レーガン大軍拡と人類の危機 『法律時報』53巻12号

知らぬ間に“核のカサ”に入れられた日本—恐怖の核軍拡競争と岐路に立つ被爆国 『危
局を読む』(中野好夫 他と) 労働旬報社

私と FEN—受験英語だけでは聞き取れない 『FEN』

1982年

昂揚期迎えたヨーロッパの反核・平和運動(山下史と共著) 『核時代の戦争と平和』
(『法学セミナー』増刊)1982年1月

誰が日本を核戦場にしようとしているのか? 『学習の友』345号 5月

国際反核統一戦線が目指すもの——人類の生存と文明の存続をかけて 『エコノミ
スト』6月1日号

西欧諸国で高まる反レーガンの潮流——反核運動と連動する不況打開のたたかい
『エコノミスト』8月10日号

日本の国際性 『聖教新聞』10月1日

中間選挙に現れたアメリカの亀裂——軍拡と失業と核が連動 『エコノミスト』11月
2日号

“The Nuclear Umbrella in East Asia”, in Exterminism and the Cold War (London, 1982)

1983年

世界経済危機と発展途上国 『月刊アジア・アフリカ研究』1月号

「“経済大国日本”の日本人」 『生活ジャーナル』1月日号

したたかな政治的英知を発揮した「若き」核軍備撤廃運動——END コンベンション(西
ベルリン) 報告 『朝日ジャーナル』6月3日号

「バーチェット死すとも」 『読売新聞』(夕刊, 文化欄)10月3日 (※補遺版では、
「バーチェット死すとも—『広島 TODAY』など残る『読売新聞』83年10月3日」と
なっている)

[書評]E.P.トムソン『ゼロ・オプション—核なきヨーロッパをめざして』 『エコノ
ミスト』10月4日号

1984年

レーガン政策の”ある崩壊”——ハート現象とどう交錯する 『エコノミスト』3月20日号

ジョゼフ・マッカーシー 猿谷要・城山三郎・常盤新平編『対戦の時代』〔人物アメリカ史・第6巻〕 集英社 1984年11月

〔書評〕坂井昭夫著『軍拡経済の構図』 『エコノミスト』11月27日号

1985年

レーガン再選と今後のアメリカ経済 『木村経済レポート』14巻1号 1月

[翻訳]マリー・カルドー「宇宙軍拡とバロック経済—核競争時代の戦争論」 『エコノミスト』2月13日号

ユーモアと風刺 『東京タイムズ』3月16日

〔書評〕清水知久著『ベトナム戦争の時代』 『エコノミスト』10月29日号

1986年

アキノ新政権下で和解はつづくか——土地改革と軍事協定が当面の課題 『エコノミスト』6月17日号

“若い日の私” 『毎日新聞』（朝刊）7月5日

1987年

国際化時代に思う 国際法律家協会編『人類にあしたあれ』 11月

大窪さんを憶う『追想 大窪愿二』9月

1988年

ベトナム戦争とキッシンジャー戦略 ベトナム戦争の記録編集委員会編『ベトナム戦争の記録』 大月書店 1988年12月

〔書評〕芳賀武『紐育ラプソディ』 『エコノミスト』1月28日号

〔書評〕マリー・カルドー著, 芝生瑞和・柴田郁子訳『兵器と文明』 『エコノミスト』5月20日号

まみちゃんのニュース塾 今週の大問題「アメリカの大統領選」 『週刊 Spa』7月21日号

ペレストロイカの進む道を日本はもっと冷静に見るべきだ 『ペントハウス』8月号

〔解説〕芳賀武著『ニューヨーク遊民団』 PMC出版 1988年10月

〔記念講演〕国際情勢をどうみるか 『未来をひらく教育』74号 10月

1989年

秘録 マッカーシズム——40年目の真実①～⑫ 『エコノミスト』4月～7月

- ①“ハリウッド・テン”と呼ばれる人々 4月11日号
- ②孤立無援の“異端審問”への道 4月18日号
- ③“不服従”の名をもらった男 4月25日号
- ④迫り来る「人類危機」をいち早く予感 5月16日号
- ⑤“われら19人”旧友たちにあいさつを！ 5月23日号
- ⑥アイスラー一家の愛と相克 5月30日号
- ⑦何が二人の親友を訣別させたか 6月6日号
- ⑧アーサー・ミラーの闘い 6月13日号
- ⑨エリア・カザンの転向と屈従 6月27日号
- ⑩ダシル・ハメットの神秘的な生涯 7月4日号
- ⑪ハメットの生涯を“私物化”した女 7月11日号
- ⑫ヘルマンの隠された「転向」 7月18日号

アメリカ研究所をつくった芳賀さん 芳賀武追悼文集をつくる会 『追想・芳賀武』

1989年6月

“自由の国”もう一つの顔・著者訪問 『毎日新聞』（朝刊） 10月29日

1991年

私の新古典（田中克彦著『ことばと国家』） 『毎日新聞』（朝刊）5月6日

古在先生の「片言双句」 『古在由重——二十世紀日本の抵抗者，人・行動・思想』 同時代社 1991年7月

現代史のなかの「真実の瞬間」 『GUILTY BY SUSPITION 真実の瞬間』（映画上映パンフレット） 1991年

1992年

私の健康法 『アルク』（日本万歩クラブ機関誌） 2号

[書評]カール・バーンスタイン『マッカーシー時代を生きた人たち』 『週刊読書人』 6月1日号

[書評]ニール・シーハン『輝ける嘘』上・下 『公明新聞』10月26日

1995年

自分と出会うーベトナム体験に支えられて 『朝日新聞』5月23日

1997年

[書評]ロバート・マクナマラ『マクナマラ回顧録』上・下 『週刊金曜日』8月27日号